



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

CITATION:

あとがき. 静脩 1965, 1(3): 8-8

ISSUE DATE:

1965-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36242>

RIGHT:

書などは、完全な身元や、生いたちを調査するのに、多くの時間を必要とする。時には、たった1冊の本のために掛全員のまる1日の労力が払われることさえある。

このように、利用者の皆さんが、的確に自分の必要とする図書を何十万冊かの中から探し出せるように、完全を期して努力を続けているのであるが、まだまだ本館の目録は利用者にとって至便なものとはなっていない。その理由のひとつは、分類表の不備である。本館の図書分類表は、明治30年の創立当時に作られたものを現在も使用しているので、その間、60余年の歳月を経ているため、いく度か部分的に改訂を加えたけれども、日進月歩の学問の進展に追いつかず、抜本的な改訂または新分類表を作る必要に迫られている。

昭和38年度1年間に受入れられた図書は7万冊以上である。その量は1冊の厚さ3糎とすると2,100米の長さになる。1日200冊以上を整理してやっと追いつける量である。(ただし、法、文、経の3学部図書は本館で整理しない。)各冊に平均5枚のカードを作るとすると、7万冊では35万枚となる。カード100枚で3糎とすると、35万枚では135米、1,000枚入りのカード箱が毎年350箱必要となる。

あらゆる国の図書、あらゆる分野の図書について一定の規則に従い目録を作る司書は、特殊な技術熟練が要求される。現在だけでなく将来にわたっても普遍妥当する目録は、一定の秩序を保ちつつ混乱を生ぜしめないことが必要である。はなやかな図書館活動の舞台裏でじみにカードを作り、目録を編成している目録掛があることを忘れないでほしい。

アジア研究米国書籍展開催

と き：2月9日(火)―12日(金)

毎日午前10時～午後5時

ところ：付属図書館陳列室

極東および東南アジア地域に関する、最新の学問的成果を示す米国図書約600点余の展示である。ますます国際的な注目を集めつつある地域に関する米国書籍展として期待されている。

あとがき

▶新年の増大号をお届けします。御覧のように、年頭にあたり「夢の図書館」を特集しました。学生諸君の「将来の図書館は、こうあって欲しいという単なるビジョン」にすぎないもの、として片付けてしまえばそれまでですが、われわれの持つ貧弱な図書館設備を考え合わせる時、なかなか面白い読み物となっております。

▶資料紹介、館内めぐりが各方面からわりあい好評をいただき、創刊号の企画以来全力を傾けて編集にあたってきたわれわれの努力は、いささかなりとも報いられたと考えております。しかし、われわれは絶えず前進しなくては満足できません。その意味で読者諸賢よりきびしいご批判を寄せていただき、立派な館報にしていきたいと思っております。今後のご鞭達を切にお願いいたします。

(S・H)